©海事プレス社2026 禁無断転載

Daily Cargo

3年連続で新造発注500万TEU超

■コンテナ船、発注先は中国造船所に集中

コンテナ船社の新造発注意欲が依然として高くなっている。海事調査会社ライナーライティカによると、2026年1～10月のコンテナ船の新造発注量は船腹量ベースで640万TEUとなり、過去最高を更新している。3年連続で500万TEUを上回り、発注残は過去最高の1660万TEUに達した。現行運航船隊に対する発注残比率は47.8%まで上昇している。

コンテナ船社の新造発注は20年以降、大きく増えている。20～22年に発注されたコンテナ船は23～24年に就航が相次いだ。23年に発注量が減少したことなどから、今年は一時的に竣工量が前年比で減少する見通しだが、27年後半以降は再び増加する予定だ。

近年は中東情勢の悪化による喜望峰経由への迂回に代表される地政学リスクの高まりや、台風の頻発・激甚化、気候変動による運航上の影響、パナマ運河や内陸河川の水位低下、港湾混雑など複合的な要因により、コンテナ輸送のボトルネックが常態化している。利用可能な船腹が不足する状況となっており、安定的な輸送力を確保するため、各社は発注を進めている。

ライナーライティカが2日に公表したデータによると、今年のコンテナ船の新造発注量のうち、中国造船所の発注比率は89%となり、大半を占めた。これにより、発注残全体に占める中国造船所の割合は82%に上昇し、韓国造船所のシェアは15%に低下した。

27年後半以降は新造船の竣工が大きく増えることで、供給量の増加が懸念されている。一方で、高齢船のスクラップや減速航海の推進により、実効船腹量が一定程度減少する可能性もある。港湾混雑の影響も中長期的に続く見通しであるため、「深刻な市況急落になる可能性は薄いのではないか」（コンテナ船社関係者）との声もある。